

自然と話そう、人と話そう!

安威川ニュース

ファンづくり会のさまざまな活動を紹介

「ダム」と「地域」と「人」をつなげていく

対談/ダム周辺整備事業の進捗

安威川ダムを茨木市の大切な財産にしていこう

「安威川フェスティバル 2019」レポート

周辺地域・茨木の新たな魅力に出会える場

VOL.7

令和2年(2020年)2月号

TALKS!
AIGAWA



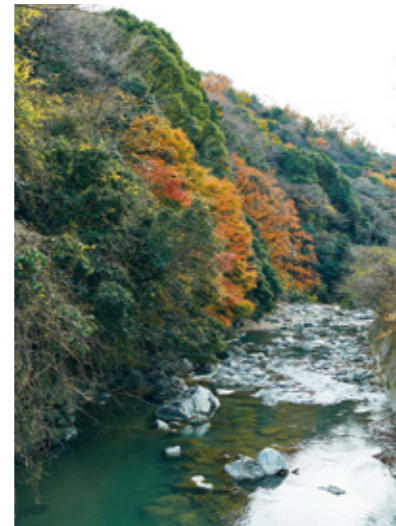
安威川フェスティバル2019 参加者のみなさん

安威川ダムファンづくり会では、「ダム」と「地域」と「人」をつなぐ、さまざまな活動を推進させていきます。



ダム周辺整備の将来について考える「竜仙峡アウトドアクッキング」。

安威川ダム建設予定地の上流部、美しい山々と渓流が織りなす絶景のロケーションに包まれた「竜仙峡」は、かつて「竜仙閣」という旅館もあり、釣り人や川遊びなどを楽しむ「親水空間」として賑わった場所。安威川ダムファンづくり会では、周辺整備事業にともない、安威川流域の利活用、環境保全や、維持管理について考え、活動に取り組んでいくメンバーが一同に集まって、「竜仙峡 アウトドアクッキング」を行いました。地元で採れた食材でつくるメニューは、人参を混ぜた夕焼けごはんのおにぎり、盛りだくさんの野菜が入った味噌汁、ニジマスの塩焼き。大自然に囲まれた幻想的な空間で、とっても美味しい料理をいただきながら、この恵まれた豊かな環境を、どのように守り継いでいくかを真摯に見つめ直す一日でした。

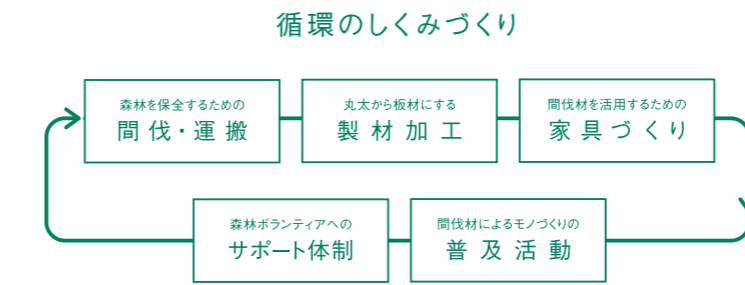


料理の監修は、大阪府立茨木高校 教諭 入交 享子さん、お米と野菜は、自然食カフェ BONO cafe 樋口智香さんの声掛けによって、北部地域の農家さんから提供していただきました。アウトドアクッキングに欠かせない鉄鍋調理は、ダッチオーブンのスペシャリスト・藤野未知数さん。ニジマスの塩焼きは、安威川上流漁業協同組合、車作自治会のみさんのご協力によるもの。食後のコーヒーは、たらば珈琲・藤井茂男さんにご用意していただきました。

安威川周辺の生態系を保全するために、「特定外来生物」についての知見を深めていきたい。

茨木市には、天然記念物や希少な生き物たちが多様に棲息していますが、近年、その存在を脅かす外来生物が生息域を拡大し、深刻な環境問題を引き起こしています。安威川ダムファンづくり会では「安威川周辺の環境を考える講座」を開催し、ダム建設地周辺に生息する「特定外来生物」の知識を深め、それらがもたらす影響や対策について、専門分野の方々に講義をしていただきました。環境カウンセラー・池田哲哉さんからは、安威川周辺の生物多様性と特定外来生物の関係について。特に希少生物の多い北部域における環境負荷の軽減を考える機会となりました。茨木市環境政策課・守口勝さんは、特定外来生物である昆虫による被害、環境破壊、自

然林等への影響など、身近な危険から茨木市全域の課題点を、わかりやすくレクチャー。大阪府中部 農と緑の総合事務所・馬場玲子さんは、安威川ダム周辺にも侵入しているナルトサワギクを主題に、特定外来植物の脅威と防除に関する解説を行いました。一般の人たちには、馴染みの少ない特定外来生物をテーマとした講座でしたが、たくさんの参加者が集まり、熱心に聴講している姿から、一般の方々の環境保全に対する意識の高さを実感することができました。このような取り組みを一過性に終わらせず、安威川周辺の自然環境を守り継いでいくための、さまざまなアクションを継続的に行っていきたいと考えています。



間伐材プロジェクトでは、森林ボランティア団体「茨木ふるさとの森林づくり隊」の協力のもと、「大阪府立大学工業高等専門学校」の学生たちが、間伐・運搬、製材作業などに取り組み、間伐材を活用した卒業制作や家具づくりを実践しています。さらに、「木作家 賀来寿史さん」の指導によって、椅子・テーブル、屋台など、新しいプロダクトを生み出し、多くの人たちに使っていただく機会を増やしていくことで、森林保全における課題の周知を促していきたいと考えています。

美しい山と森を守るために、みんなが一緒になって「循環」をつくる。

茨木市北部の里山周辺地域に広がる美しく豊かな森は、近年、林業を営む人々の減少によって、間伐をはじめとする「森の手入れ」が行き届いていない状況です。安威川ダムファンづくり会では、2015年に「間伐材活用による森林保全プロジェクト」を発足。日々、茨木の山と森を守るための活動を続けておられる森林ボランティアの方々の協力のもと、学生、クリエイター、家具づくりの専門家が、一緒になって、課題解決を目指しています。



茨木の特産品づくりをスタートアップ、茨木産の玉子と蜂蜜を使った「山のカステラ」。

安威川ダムファンづくり会では、地産地消の推進を目的とした、茨木の新しい特産品づくりに取り組んでいます。「山のカステラ」は、大阪府立茨木高校の生徒たちに伝わる「茨高カステラ」をお手本に、茨木産の玉子と蜂蜜を使ってつくりました。完成品のお披露目として、安威川フェスティバル 2019 にて実売。たいへん好評をいただき、用意した品は完売となりました。今後は、みなさんの意見やアイデアを集約していきながら、さらに改良を加え、販売の場を拡大し、特産品としての定着を目指していきます。



安威川流域市と一緒に、防災意識を深めていきたい。

茨木市立東中学校では、食育・防災・防犯をはじめ、地域の方々から「安心・安全」に暮らしていくための、さまざまな取り組みを実践しています。特に防災に関しては、中学校を中心に、小学校区の自主防災会、PTAや地域の役員の方々、子どもたちなどが力を合わせて活動を行い、茨木市内の危機管理における先進的な事例となっています。毎年開催される「校区フェスタ」でも、応急手当、防災食、水消火器の扱い方といった防災知識を中学生が学び、小学生にわかりやすく指導するなど、校区が一体となって防災意識を高めています。平成30年の大阪府北部地震による大災害時には体育館に避難所が開設され、自宅や近所の保育園にいるのは不安という子ども連れの方、高齢の方などが続々と避難され、迅速かつ手厚く迎え入れることができ、日頃の活動が見事に発揮された避難所となりました。



安威川ダムは、100年に一度の降雨に対応するために、河川改修とあわせて建設する治水ダム。昨今のような想定を超える水害が生じている中、災害時における安威川流域の方々との、さらなる情報共有や連携のしくみづくりに取り組んでいかなければなりません。ファンづくり会では、今後も、東中学校をはじめとする地域の先進事例に着目させていただき、流域市のみならずと一緒に、危機管理ノウハウ、ネットワーク構築に向けた活動を促進させていきたいと考えています。

東中学校では、PTA、地域の方々、小学生と中学生と一緒に校区探検をして「安全マップづくり」を行うなど、地域ぐるみで「防災防犯」への取り組みを積極的に推進しています。



大阪府と茨木市が連携し合い 安威川ダムを 茨木市の大切な財産にしていく。

茨木市 副市長 井上茂治 × 大阪府 安威川ダム建設事務所 所長 江原竜二

地域資源や魅力を活用して 茨木市の新たなまちづくりに取り組む。

江原所長（以下敬称略）：国土交通省から茨木市に就任された井上副市長のこれまでのプロフィールをご紹介いただけますでしょうか。

井上副市長（以下敬称略）：昭和62年に旧建設省に入省して以来、本省をはじめ地方整備局、自治体や都市再生機構等の関係団体を経験してきました。特に、本省の河川局では、河川堤防の整備など補助河川事業や、まちに開かれた河川にするため、多くの人たちが川に集まり、楽しんでいただける「親水空間づくり」に取り組んだこともあります。自治体では、山梨県にて流域下水道事業に携わっていました。以降は、岡山市、京都府にも出向。茨木市と同じ基礎自治体である岡山市では、市民に近い立場で下水道事業を担当させていただきました。



江原：中央省庁、広域自治体、基礎自治体、出先機関の立場など、すべてを経験されてきた井上副市長ですが、あらためて茨木市の魅力についてお聞かせいただけますでしょうか。

井上：最初に印象的だったのは「元茨木川緑地」です。中心部にあられだけ立派な緑道が整備されていることに深く感銘を受けました。市内で貴重な緑が南北を貫き、それがシンボリックにまちの大きな骨格となっている。さらに東西方向を緑でつないでいけば、とても良いまちになるのではないのでしょうか。あと、50年前の万博当時に交通体系や町並みが形成されているために、老朽化対策という課題もあるのですが、昭和の時代が色濃く残っていて、どこか懐かしさを感じるまちです。また、路地に入ってみると、社寺や地蔵があったり、町屋があったり、昭和以前の古くからの歴史にも触れ合うことができる。そのような「文化の魅力」が詰まったまちだと捉えています。

江原：就任以来、かなり市内を巡られておられるようですが、週末にも散歩などをされているのでしょうか。

井上：はい、この1年弱で市内いたるところを巡り尽くしました。今では、路地など細い道まで巡っています。あと、茨木市は南部の市街地だけではなく、市の半分の面積を占める北部の山間地にも魅力が溢れています。「自転車と山とまちをつなぐ」というコンセプトのもと、市が「いばきたフォトサイクリング」というイベントを実施しているので、それに同行するかたちで北部地域も体感してきました。棚田をはじめとする美しい景観、里山の営み、数多くの史跡など、市街地の近くに大自然に包まれた豊富な資源があるのも茨木市の特長ですね。

江原：山間地をフィールドとして仕事している私たちにとって、あらためて意見をお聞きし、今後の仕事に活かしていきたいと思えます。副市長の任期中での市域のまちづくりについて、課題を挙げるとすれば、どのような点でしょうか。

井上：まず、万博当時につくられたまちを、50年経過した老朽化対策とセットで、どのように変化させていくかが重要な課題です。茨木らしさや魅力を失わず、時代にフィットする新しいまちづくりに取り組んでいかなければなりません。道路交通体系が複雑化しているので、これを明確に分かりやすくしていくというのが第一のステージ。次に、高齢者が増加していくなかで、車優先ではなく、歩いて便利で快適に過ごすことができるまちに再編していきたい。さらに、市街地と山間地が近接しているという絶好のロケーションを活かし、それらをうまくつなぎ、都市で暮らす多くの人たちに山の魅力を知ってもらおう。人口減が続く山間地の資源を掘り起こし、活性化させていくことも大きな課題であると認識しています。

安威川ダムを「ハブ拠点」として、 市街地と山間地をつないでいきたい。

江原：安威川ダムは長い経過を踏まえて、本体工事の着手に至り、完成までのスケジュールが見えてきました。これまでの国土交通省でのキャリアと基礎自治体のトップマネジメントを経験されていることから、安威川ダム建設事業について思うところや期待されることはありますか。

井上：これだけ大きな事業を進めていくには、流域で暮らしている人々、特に地元の方々のご理解、ご協力があって成り立っているということを常に心に留めておくことが大切だと思っています。みなさんの治水等に対する思いに応えられるよう、府と市が一緒になって尽力していかなければならないですね。安威川ダム建設事業については、昨今のような想定を超える水害が生じているなか、単にダムを造って終わりではなく、「河川はそもそも自然物」という原点に立ち返り、より広い視野での運用等が求められると思っています。

井上 茂治 Inoue Shigeharu

茨木市 副市長

昭和62年に旧建設省に入省。技術(土木)職。これまで本省、自治体、関係団体等を経験。分野では下水道が長いが、まち・地域づくり、河川、道路等も経験。特に、河川では、本省で補助河川、河川環境、かわまちづくり、スーパー堤防等を担当。まちづくりでは、都市再生機構で各地の開発等に関わった。自治体は、これまで山梨県、岡山市、京都府にも出向。平成31年4月から茨木市副市長に就任。安威川ダム周辺整備を含む、まちづくりや産業振興を担当する。

江原 竜二 Ehara Ryuji

大阪府 安威川ダム建設事務所 所長

昭和63年に大阪府入庁。土木職。入庁以来、主に治水事業や防災・危機管理業務を経験。平成11年から3年間茨木市に派遣。安威川ダムに関わる。以来、ダム歴は通算15年目。この内3年間はJICA専門家として海外派遣。平成23年に河川室ダムグループ長、平成26年に安威川ダム建設事務所建設課長。3年間の外部派遣の後、平成31年4月から現職に就任。ダム完成に向けて工事の最盛期を指揮する。防災研究に関わる学術博士としての一面も持つ。

構造物をつくることは、治水のひとつのパーツであって、それをきちんと維持管理することはもちろん、ソフトも含めて対応していくことが重要ではないでしょうか。

江原：東日本大震災で福島県の藤沼ダムが決壊して、下流の住民が犠牲になりました。大阪府ではこのことを踏まえ、安威川ダムの本体工事が着工する前に、想定を大幅に超える地震に対して堤体が破壊に至らないことを確認しました。それと、ダム完成後の運用では、特に想定を超える出水時の放流において、下流域の住民に対して適切な避難情報を発信することをルール化していきます。完成後も茨木市をはじめとする流域市と情報を共有しながらダムの運用につなげていきたいと思えます。

井上：都市近郊にダムが出来ることを多くの方々に周知していただき、それを核として地域振興につなげていくことも大きなミッションです。そして、ダムを市街地と山間地の人々、情報、文化を交流させていくハブ拠点として機能させていきたいと考えています。

江原：山とまちとの中間にあるハブ拠点としては、市域のマネジメントとなり、茨木市の役割になってくるわけですが、我々大阪府は、まさにそのハブとなる部分をつくる事業を行う立場として、ダムを造って終わりではなく、ダムが茨木市全体にとっての財産になるようなものにしていきたい。完成していきなりではなく、そのような利用につながるような仕上げを考えていきます。

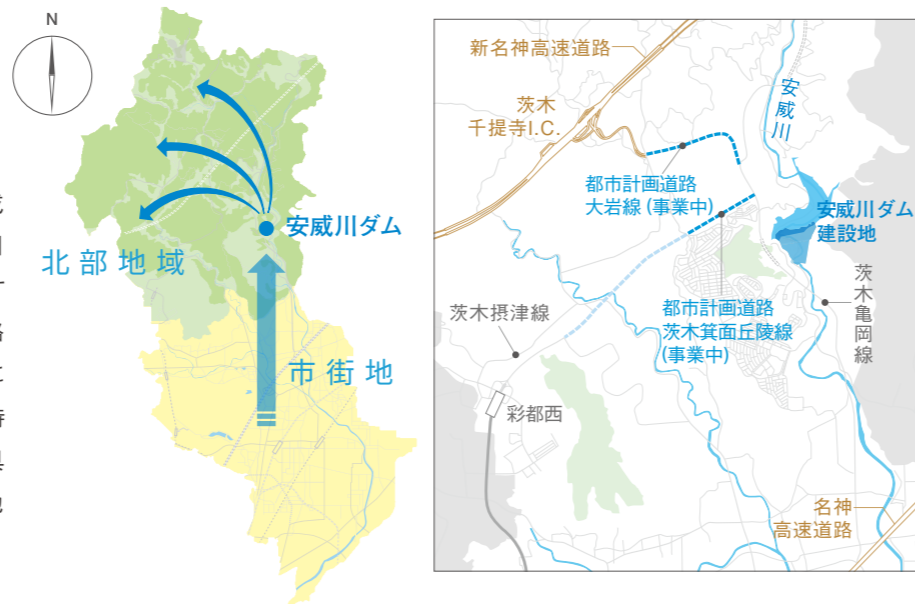
井上：府市ともに河川行政の役割分担はありますが、どこに重点をおかなければならないかという、当然、流域に住んでおられる人々を守ることであり、ダムは、そのための施設。住民への想いは、立場が異なっても共通です。それぞれの役割を効果的に果たして、さらに連携し合いながら、常に住民の安全性を確保していくことを最優先課題として取組みを推進させていきたいですね。

写真右：茨木市 副市長 井上茂治
写真左：大阪府 安威川ダム建設事務所 所長 江原 竜二



安威川ダムを、市街地と山間地をつなぐ 「ハブ拠点」と位置づけ、市全体の活性化を目指す。

基礎自治体である茨木市では、安威川ダム周辺整備基本方針を基に、ダム完成前から安威川ダムを市北部地域の『ハブ拠点』と位置づけ、市全体の活性化を目指すべく、公共投資だけでなく民間事業者による柔軟な発想による事業を展開するため、公募による事業者選定に向けた検討を進めてきました。新名神高速道路の開通に伴う新たなルート(茨木千提寺I.C.を経由)により、広域的な自動車による交通アクセスも確保されてきたことから、その事業コンセプトや考え方、期待される整備イメージや事業効果、官民役割分担、事業スケジュール等について具体化した「安威川ダム周辺整備基本構想」を令和元年6月に策定し、将来の地域づくりに向け取組みを進めています。



安威川ダムは、100年に一度の降雨に対応するため河川改修(整備済)とあわせて建設を進めている治水ダム。

安威川ダムは、昭和42年北摂豪雨災害を契機とし、100年に一度の降雨に対応するため下流の河川改修(整備済)とあわせて建設が進められている治水ダムです。ダムの完成により、時間雨量80ミリ程度かつ日雨量250ミリ程度の大雨を想定した、ダムの下流域の洪水被害を防ぎます。平成26年(2014年)にダム本体工事に着手し、令和4年(2022年)春の完成を目指して事業を推進しています。





【安威川フェスティバル2019 レポート】

周辺地域・茨木の新たな魅力に出会える場 「安威川フェスティバル2019」が開催されました。

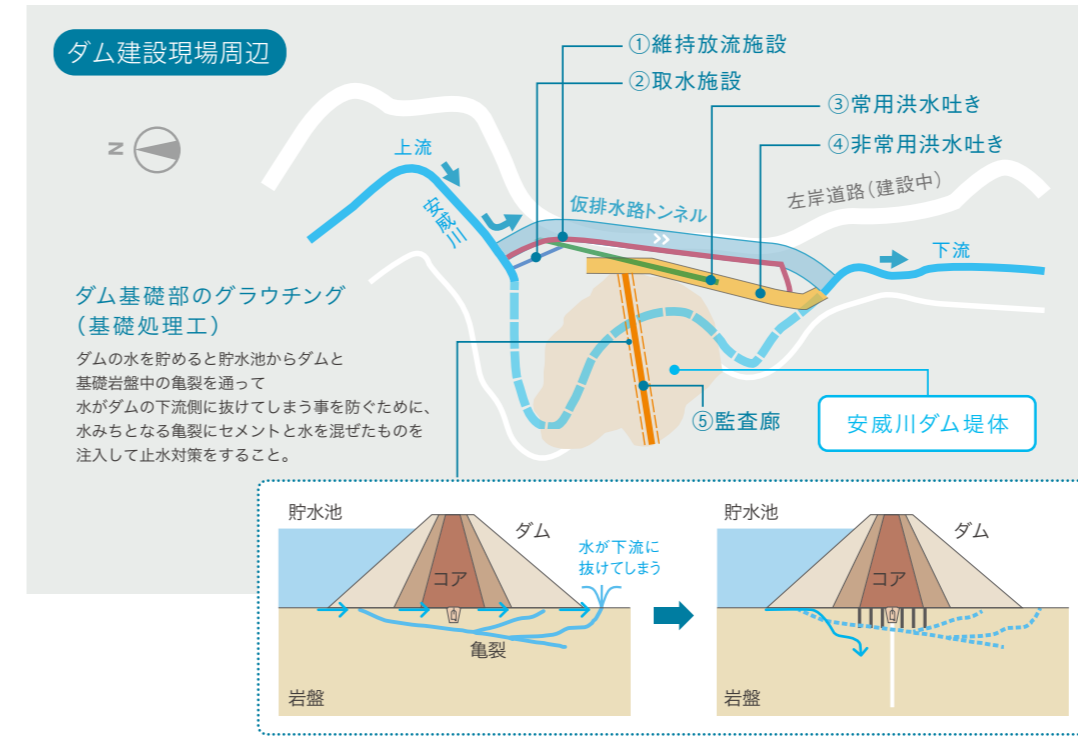
令和元年11月4日、6度目となる安威川ダムファンづくり会主催の「安威川フェスティバル2019」が、茨木市の「桑原ふれあい運動広場」で開催されました。清々しい秋晴れのもと、約1,600名の方にご来場いただき、大盛況のフェスティバルとなりました。「次世代へつなぐ出会いの場」をコンセプトとし、安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを考え、実践する人たちが出会う交流の場を目指して、市街地と山間地の活動が一同に会しました。前回同様、「自然に学ぶ」「文化に学ぶ」「ダムに学ぶ」「つなぐプログラム」という4つのテーマにもとづいて、50近くのプログラムを実施し、子どもから大人まで楽しめる、多彩なプログラムを展開することができました。「自然に学ぶ」は、安威川に生息するカメの生態展示や自分たちが描いた生きものの絵を缶バッジにする「手作り缶バッジ」といった環境教育プログラムのほか、「丸太切り体験」「どんぐりポットづくり」「土糞づくり体験」などを実施。また、安威川上流漁業協同組合による「アマゴのつかみ捕り」は子どもたちに大人気でした。「文化に学ぶ」は、食育をテーマとした「踊ってつらう！ペットボトルピザ」や「見山の郷」「いばきた食いしんぼう横丁」「生保コメ・サイ菜クラブ」など、お米や野菜の販売等を通じて、地元食材を楽しむプログラムが実現しました。また、「お馬と仲良し」では、茨木市上音羽の「ばかぼこ広場」からボニーがやってきて、親子で餌をあげたり、お散歩をして、お馬とのふれあいを楽しみました。「ダムに学ぶ」は、ダム建設の現場で活躍する大型重機に試乗したり、実際の工事現場をバスでまわられる「ダム工事現場体験ツアー」等、間近で見る重機の大きさに大人も子どもも大興奮でした。さらに、ダム建設工事の進捗状況を伝える展示ブースを設け、家族連れのみならずにも楽しみながら学んでいただきました。「つなぐプログラム」は、地元6地区のスタンプを集めて景品がもらえる「スタンプラリー」、大阪府立大学工業高等専門学校と協働でつくった間伐材のテーブル・椅子を会場に設置する「間伐材プロジェクト」や、市内外のサイクリストたちが一同に集い、自転車によって山とまちをつなぐ可能性を探る「サイクリストミーティング」を行いました。さらに、多数の地元企業や飲食店が参加され、一緒になってフェスを盛り上げることができました。6年目を迎えて、リピーターの方々や口コミで集まっていた方が増え、安威川フェスティバルが、みなさんに広く認知され、地元のお祭りとして定着しはじめてののではないかと実感しています。今後に向けて、さらに楽しんでいただけるフェスティバルとなるよう創意工夫を続けていきたいと思ひます。

【主催：安威川ダムファンづくり会】
↓
安威川フェスティバルのコンセプト
次世代へつなぐ出会いの場
自然に学ぶ 文化に学ぶ ダムに学ぶ つなぐプログラム



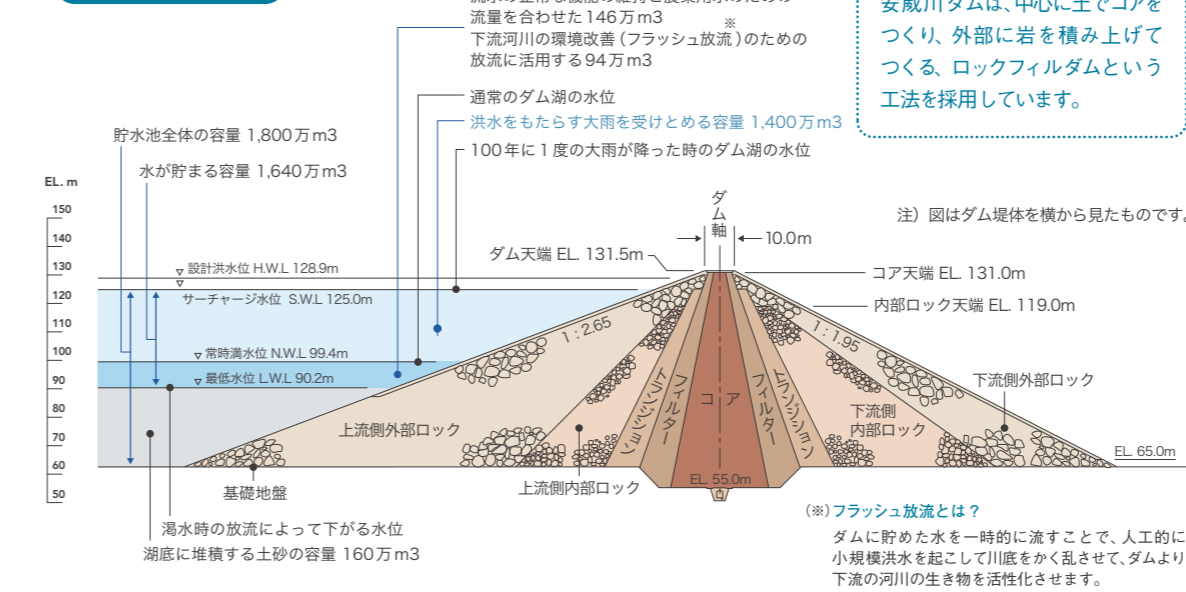
ダムの本格的な盛り立てに向けて工事が進められています。

令和4年春のダム堤体完成に向けて、ロック材の先行盛立と並行して監査廊の築造及び、ダム基礎部のグラウチングを進めています。



- ① 維持放流施設
雨が降っていない普段の川の維持用水を下流へ放流する施設です。
- ② 取水施設
貯水池から維持用水を取水するための施設です。
- ③ 常用洪水吐き
雨が降っている時のダム湖の水を下流に放流する施設となっており、100年に1度程度の洪水まで洪水調節を行える施設です。安威川ダムではトンネル形式となっています。
- ④ 非常用洪水吐き
安威川ダムはロックフィルダムであるため、水の越流に対して強くありません。そのため、常用洪水吐きで対応できない100年に1度より大きな洪水が起きた場合に堤体を越流させないために設けられた水路を言います。
- ⑤ 監査廊
ダム堤体下部の岩盤内に設置する通路で高さ2.5m、幅2mの大きさです。浸透してきた水の濁りや堤体からの予期せぬ漏水がないことを確認するための施設です。

ダム標準断面図



●安威川ダム建設工事の進捗状況



新しく整備される「左岸道路」開通によって、ダム湖を周回することが可能となります。

安威川ダム周辺の道路整備においては、既に開通している付替府道・茨木亀岡線によって、ダムの右岸側へのアクセスができるようになっています。現在は、その対面にあたる左岸道路の整備に着手し、全長3.3kmの内、残り約1kmにおいて工事を進めています。深い山岳の谷間を橋梁でつなぎ、美しい山々と湖畔の眺望を楽しむことができる新たな道路です。また、右岸と左岸の両道路がつながることで、ダム湖を周回することが可能となります。

多様な識者の方々に意見を頂きながら、自然環境・景観に配慮した道路整備を目指しています。

左岸道路は、平成28年3月に策定した「安威川ダム自然環境保全対策実行計画案（※）」に基づいた整備を進めています。環境への負荷を軽減させるため、仮橋を使用するなど、橋梁の工事に必要な伐採面積を最小限に抑えています。さらに、切り開いた山に在来種の樹々を戻していくための緑化工法、道路の壁面にデザインパネルを採用、ガードレールの色を茶色に統一するなど、自然環境・景観に配慮した道路整備を行っています。



（※）安威川ダムの建設及び管理に携わる一人一人が自然環境保全に取り組んでいくための指針。

令和4年春のダム堤体完成に向けて、
ダム工事のガイドラインや進捗状況などを、
より詳細でわかりやすく
情報発信を行っていきます。

ダムの建設現場が一望できる大門寺北側高台ゾーン
(展望広場)にインフォメーションボードを設営しました。
また、市街にある安威川ダム情報交流センターでは、
パネル展示の充実を図るなど、皆さんにダム工事の経緯
やガイドライン、進捗状況などを、より詳細にわかりや
すく情報発信を行っていきます。



大門寺北側高台ゾーン(展望広場)にインフォメーションボードを設営



安威川ダム情報交流センターのパネル展示をリニューアル

安威川ダムカードを 集めてみませんか？

[カード 配布場所]

安威川ダムカード

安威川ダム資料館 /
安威川ダム建設事務所(茨木保健所4階) /
安威川ダム情報交流センター(茨木保健所5階) /
忍頂寺スポーツ公園 竜王山荘

安威川ダムグリーンカード

安威川ダム資料館

安威川ダムカレーカード

中国料理 雁飯店 / レストランさくら / Mariana CAFE /
招福堂 / タシモリカレー /
茨木市シルバー人材センターシルバージュップクローバー /
忍頂寺スポーツ公園竜王山荘 レストランやまなみ /
cafeD / CampingKitchen / 天婦羅の天升



安威川ダムカード

ダムのPRを目的として、全国のダム約500ヶ所で発行されるダムの紹介カード。
安威川ダムでは現在、「建設中Ver.2.0」を配布しています。工事の進捗に
あわせて、今後様々なバージョンのカードが登場する予定です。



安威川ダムグリーンカード

NPO法人コミュニティ安威川では、安威川ダム周辺の道路・遊歩道沿いで、
植栽・整備活動を行い、美しい自然環境を創生する「安威川ダム四季彩ロ
ード整備プロジェクト」の苗木購入の為に基金へ募金いただいた方に、記念
品としてお渡ししています。



安威川ダムカレーカード

ダムの堤体や緑豊かな里山など、安威川ダムやダム周辺の自然をイメージ
してつくられた「安威川ダムカレー」。安威川ダムカレーは茨木北部及び中心
市街地の10店舗で販売しています。ご注文の方にもれなくお渡ししています。

安威川ダムカレーを 食べに行こう。

安威川ダムのPRの一環として、安威川ダムに見立てた「安威川ダムカレー」を
茨木市観光協会と茨木市が共に開発しました。
北部地域ではもちろん、中心市街地の飲食店などで販売しています。
ご注文の方には、もれなく「安威川ダムカレーカード」が付いてきます！



茨木市忍頂寺スポーツ公園
竜王山荘 ver.



中国料理 雁飯店 ver.



Mariana CAFE ver.



茨木市シルバー人材センター
シルバージュップクローバー ver.



レストランさくら ver.
(2月中旬販売開始予定)



招福堂 ver.



タシモリカレー ver.



cafeD ver.



CampingKitchen ver.



天婦羅の天升 ver.

INFORMATION

ダム建設現場が一望できる安威川ダム資料館。

建設が最盛期を迎えつつある安威川ダム建設現場を間近で見学できる展望施設に併設されて
いる安威川ダム資料館では、これまでのダム事業の歴史や取組みを知ることができるパネルや
事業パンフレット等を多数ご用意しております。また、安威川ダムファンづくり会の活動拠点とし
て、野菜教室や歴史教室等のイベントを定期的実施しておりますので、是非お立ち寄りください。



新たな観光スポットとなるダムフォトフレームが完成しました。

安威川ダム資料館に併設されている展望施設にて、日々景色
が変わるダム建設現場を背景に、自分だけのマイダムカードを
つくることができるフォトフレームを設置しました。資料館や
ダム建設現場の見学と併せて、安威川ダムオリジナル・フォト
フレームをお楽しみください。



[安威川ダム資料館 所在地]



安威川ダム資料館は、安威川ダム堤
体の建設地すぐ近くの、大門寺北側
高台ゾーン(※1)にあります。

[阪急茨木市駅から]

西口ロータリーから阪急バス「車作」
行に乗り、「大門北」停留所にて下
車。停留所から徒歩10分程度です。

安威川ダム資料館

場 所: 茨木市大字大門寺97
大門寺北側高台ゾーン

開館時間(※2)
毎週木曜日 13:00~16:00、
毎月第1・第3土曜日
10:00~16:00

問合せ: 安威川ダムJV工事事務所 TEL: 072-648-5464

(※1) 大門寺北側高台ゾーンへは、9:00~16:00までの間には自由に見学可能です。約20台の駐車が可能です。

(※2) 詳しくはホームページ (<http://www.aigawa.jp/>) もご覧ください。

ダム周辺の巨大ジオラマや、ダムの立体模型を観に行こう！

安威川ダムについて皆さんに知っていただくために、「安威川ダム情報交流センター」を
開設しています。ダムの役割やダム周辺の環境保全対策について、広く一般の方々に情報
を提供するとともに、ご意見を頂くことを目的としています。

センター内では、ダム事業地周辺の立体模型やパース、パネルの展示、パンフレットの配布、
ビデオ放映を行い、ミニ図書館も設けています。

自由に見学・閲覧できますので、皆さんぜひお越しください。

安威川ダムファンづくり会からのお知らせ

ファンづくり会では、部会の活動に参加してくれる方を募集しています。詳しくは下記をご覧ください。

AIGAWA.jp 検索
ファンづくり会情報サイト



facebook ページもぜひご覧ください



安威川ダム情報交流センター

場 所: 茨木市大住町8-11
開館時間: 平日 10:00~16:00

<車でお越しの方>

国道171号西河原西交差点を南に下って、JR線高架下を
通過した2つ目の信号を過ぎた左側にあります。

<電車でお越しの方>

阪急茨木市駅(北口)より北に向かって徒歩約10分。
JR 総持寺駅(北口)より徒歩約10分。

※地下には駐車場がありますが、収容スペースに限りがあり
ますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。